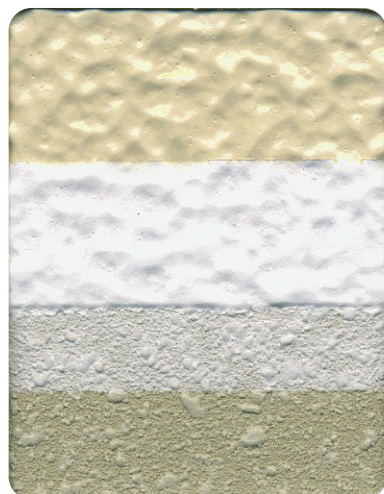


COOLな屋根には、
COOLな外壁を。





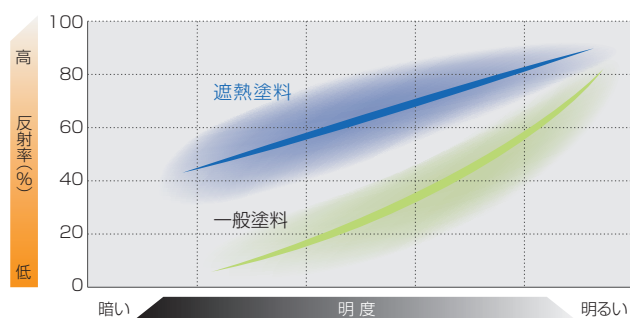
◀アレスクール
プラスウォール水性Si

◀アレスクール
プラスウォール中塗

◀アレス水性エポキシ

◀吹付タイル

■塗膜の明度と日射反射率の関係



COOLレベル
日射反射率※

1 2 3 4 5	80%以上	1 2	50~60%
1 2 3 4	70~80%	1	40~50%
1 2 3	60~70%		

※一般塗料との日射反射率の比較は、「塗膜の明度と日射反射率の関係」のグラフをご参照ください。

標準色ラインナップ



AW-001

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-002

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-003

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-004

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-005

COOLレベル

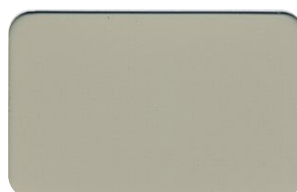
1 2 3 4 5



AW-006

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-007

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-008

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-009

COOLレベル

1 2 3 4 5



AW-010

COOLレベル

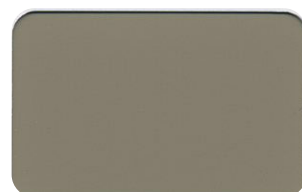
1 2 3 4



AW-011

COOLレベル

1 2 3 4



AW-012

COOLレベル

1 2 3 4



AW-013

COOLレベル

1 2 3 4



AW-014

COOLレベル

1 2 3



AW-015

COOLレベル

1 2 3 4



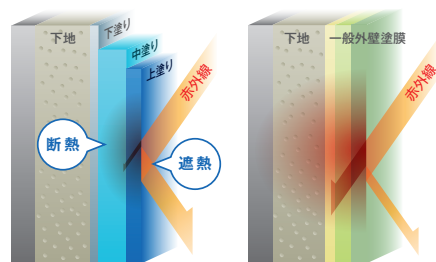
AW-016

COOLレベル

1 2 3 4

※この色見本は紙に塗装していますので、実際の色・ツヤが異なる場合があります。※塗料の種類により同じ色相でも色・ツヤが異なる場合があります。※広い面積に塗られた場合、実際の色よりも多少明るく見える場合があります。※この色見本の有効期限は印刷年月(印行裏面記載)より5年です。※色見本は経時劣化により変色していきますので、直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないでください。※日射反射率は「JISK5602塗膜の日射反射率の求め方」に準拠し、水性エポキシ/アレスクールプラスウォール中塗り/アレスクールプラスウォール水性Siで日射反射率(近赤外領域)を実測しています。※日射反射率は下地の状態や塗装仕様、施工条件などにより多少の増減が生じます。

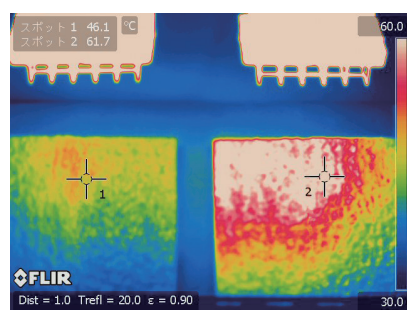
『遮熱』と『断熱』のWブロック効果で 人と建物にやさしい外壁に。



COOLな壁は 赤外線を反射する

遮熱効果とは、太陽光線（赤外線）を効率よく反射し、外壁の塗膜表面温度上昇を抑制することです。それにより素材の蓄熱を抑え、熱による素材の劣化を防ぎます。

■ ハロゲンランプ照射実験例（サーモグラフィ画像）



一般壁用塗料と「アレस्कールプラスウォール」の塗板にハロゲンランプを照射して表面温度を確認しました。この実験では、表面温度で約15.6℃の温度低減効果が確認できました。（塗色：AW-016）

COOLな壁は 低汚染で汚れにくい

緻密かつ強靱な塗膜形成技術で開発された防汚性能が建物の美観を維持します。また、汚れによる遮熱効果の低下を抑制し、性能の長期維持を図ります。グラフでは雨筋が発生していないことと色味の変化が少ないことが分かります。

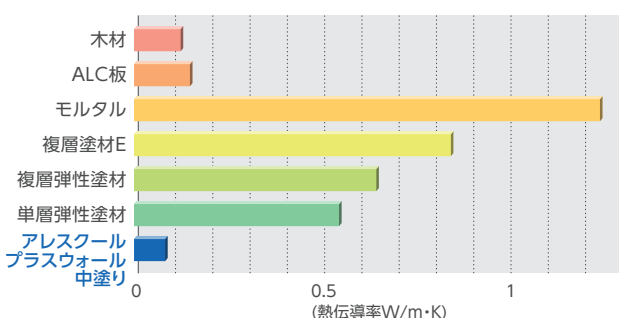
■ 耐汚染性の比較



COOLな壁は 熱を伝えにくい

特殊な成分を用い熱伝導率を小さくすることで、素材表面に蓄積された熱や外気からの熱を室内に伝えにくくします。従来単層弾性材と比べ熱伝導率約5分の1の断熱効果を発揮します。（当社比）

■ 熱伝導率の比較

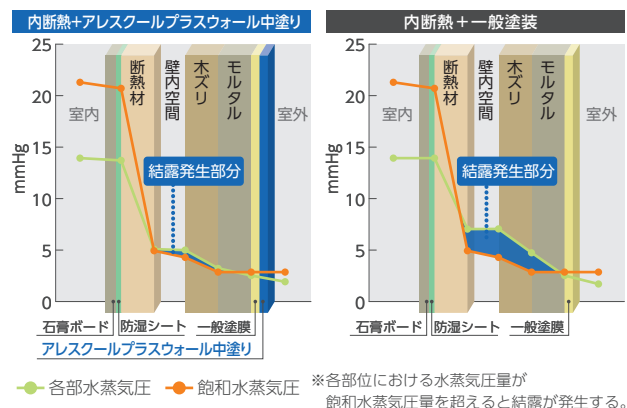


熱伝導率とは 熱の伝わりやすさを数値化したもので、熱伝導率の数値が小さいほど熱を伝えにくく断熱性が高いことを示します。

COOLな壁は 壁内結露を軽減する

構造木材を水分から守り様々な効果を発揮。壁内断熱材の含水によるズリ落ちの抑制や木部の腐朽、カビ・ダニやシロアリの発生などを軽減し、内断熱工法（RC造）や充填断熱工法（木造）の性能補強につながります。

■ 壁内結露の比較



※各部位における水蒸気圧量が飽和水蒸気圧を超えると結露が発生する。

■ 品名・容量

工 程	品 名	色 相	光 沢	容 器
上塗り	アレस्कールプラスウォール 水性Si	各色	有	15kg、4kg
中塗り	アレस्कールプラスウォール 中塗り	白	つや消し	14L
下塗り	エコカチオンシーラー	乳白色	—	15kg
	アレス水性エポレジン	白	—	15kgセット（ベース12.5kg、硬化剤2.5kg）

アレスクール プラスウォール

- 下記仕様書の標準所要量は、被塗物の形状や素材・塗装方法・環境などによって増減することがあります。
- 吸い込みの著しい素材の場合、再度シーラーの増し塗りを行ってください。
- コンクリート、モルタル素地には、「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」、「アレス水性エポレジン」、「浸透形Mシーラー」も使用可能です。

■ コンクリート、モルタル系素地【5工程遮熱断熱仕様】

工 程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)
下地調整	新 設	エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面に行ってください。 ※コンクリートブロックのような吸い込みの著しい素材の場合、フィラーなどの下地調整が必要です。					
	塗 替	劣化塗膜をケレン工具（皮スキ・ケレン棒等）で完全に除去し、ホコリ・汚れ・チョーキング粉を高圧水洗で除去してください。 ※旧塗膜中の活膜部はサンドペーパー等で目粗ししてください。					
下塗り	エコカチオンシーラー または アレス水性エポレジン	1～2	0.13	ハケ・ローラー	2時間以上7日以内	—	0（無希釈）
			0.17	エアレス			
		1～2	0.13～0.20 0.17～0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0～10 10～15
中塗り	アレスクールプラスウォール中塗	2	0.70～1.00	多孔質ローラー	4時間以上7日以内	上水	0～5
		1 ベース吹き	0.80～1.10	タイルガン（口径6mm）			2～5
		2 パターン吹き	0.75～1.00	タイルガン（口径6～8mm）			0～3
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13	ローラー	2時間以上7日以内	上水	3～8
			0.16	エアレス			

■ 窯業系サイディングボード【5工程遮熱断熱仕様】

工 程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)
下地調整	窯業系サイディングボードのクラック・ボード面の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行なってください。劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面に行ってください。シーリングはシーリングメーカーの規定する期間養生させ、十分に硬化、乾燥していることを確認してください。						
下塗り	アレス水性エポレジン	1～2	0.13～0.20	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内	上水	0～10
			0.17～0.20	エアレス			10～15
中塗り	アレスクールプラスウォール中塗	2	0.70～1.00	多孔質ローラー	4時間以上7日以内	上水	0～5
		1 ベース吹き	0.80～1.10	タイルガン（口径6mm）			2～5
		2 パターン吹き	0.75～1.00	タイルガン（口径6～8mm）			0～3
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13	ローラー	2時間以上7日以内	上水	3～8
			0.16	エアレス			

■ コンクリート、モルタル系素地【3工程遮熱仕様】

工 程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)
下地調整	新 設	エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面に行ってください。 ※コンクリートブロックのような吸い込みの著しい素材の場合、フィラーなどの下地調整が必要です。					
	塗 替	劣化塗膜をケレン工具（皮スキ・ケレン棒等）で完全に除去し、ホコリ・汚れ・チョーキング粉を高圧水洗で除去してください。 ※旧塗膜中の活膜部はサンドペーパー等で目粗ししてください。					
下塗り	エコカチオンシーラー または アレス水性エポレジン	1～2	0.13	ハケ・ローラー	2時間以上7日以内	—	0（無希釈）
			0.17	エアレス			
		1～2	0.13～0.20 0.17～0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0～10 10～15
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13	ローラー	2時間以上7日以内	上水	3～8
			0.16	エアレス			

■ 窯業系サイディングボード【3工程遮熱仕様】

工 程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)
下地調整	窯業系サイディングボードのクラック・ボード面の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行なってください。劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面に行ってください。シーリングはシーリングメーカーの規定する期間養生させ、十分に硬化、乾燥していることを確認してください。						
下塗り	アレス水性エポレジン	1	0.13～0.20	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内	上水	0～10
			0.17～0.20	エアレス			10～15
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13	ローラー	2時間以上7日以内	上水	3～8
			0.16	エアレス			

施工上の注意事項

- ①素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケツ科科学社製CH-2）、または5%以下（ケツ科科学社製HI-500シリーズ：コンクリートレンジ）の条件で塗装してください。
- ②塗替える場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシなどで脆弱な塗膜を除去し、高圧水洗を行い1日乾燥後、塗装を行ってください。
- ③気温5℃以下、湿度80%以上、また、降雨、降雪、強風が予想される場合は、塗装を中止してください。
- ④気温0℃以下、40℃以上での塗料の保管は避けてください。
- ⑤本品は屋根への適用はできません。
- ⑥5工程仕様の場合、金属サイディング面及び弾性スタッコ面の塗替えには使用できません。
- ⑦旧塗膜がスタッコのような場合は、各工程の塗料を十分に塗り込んでください。
- ⑧下地補修部へ対しては、必ずシーラー塗装を行ってください。
- ⑨脆弱な下地などには浸透形Mシーラーを使用してください。
- ⑩シーラーの吸い込みが著しい場合には、再度シーラーを増し塗りしてください。
- ⑪軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」を塗装してください。
- ⑫開缶後、放置する場合には皮が張らないようポリエチレンシートなどを用いて、密閉してください。
- ⑬乾燥すると養生テープを剥がにくくなりますので、塗膜が乾燥する前に養生テープを剥がしてください。乾燥後に養生テープを剥がす場合にはカッターなどでカットした後に、テープを取り外してください。
- ⑭汚れ、傷などにより補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑮ハケ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。
- ⑯「アレス水性エポレジン」、「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」はベースと硬化剤がセットになっている2液形塗料です。ベース、硬化剤は正確に計量し、電動攪拌機を用いて、よくかき混ぜてから使用してください。また、ベース／硬化剤を混合後4時間以内で使用してください。夏場の場合は2時間程度で使用できません。
- ⑰サイディングボードに既に反り、欠落、変形が発生している場合には、サイディングボードを取り替える必要があります。
- ⑱シーリング材とサイディングボードとの接合面に、剥がれ、ウキが認められる場合には、シーリング材を打ち直してください。
- ⑲シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- ⑳コンクリート、モルタル系素地には「エポMシーラー」も使用できます。

■ラベルやSDSに記載されている注意事項を守ってください。
■詳細な内容については安全データシート（SDS）をご参照ください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご了承ください。

(21年09月09日PNA) カタログNo.717
頒布価格 1,500円(税込)